

## 異常暈 (ハロー) も空からの手紙

増田 善信\*

本誌1988年5月号に紹介された浅野正二(1988)の「根室で観察されたハロー現象」を興味深く読んだ。特に、ハロー現象の解明にコンピューターによるシミュレーションが使われていることを知ったからである。実は筆者はかつて全気象労働組合気象研究所分会の機関紙「チビッコ」2000号記念号(1984)に次のような一文を載せたことがある。

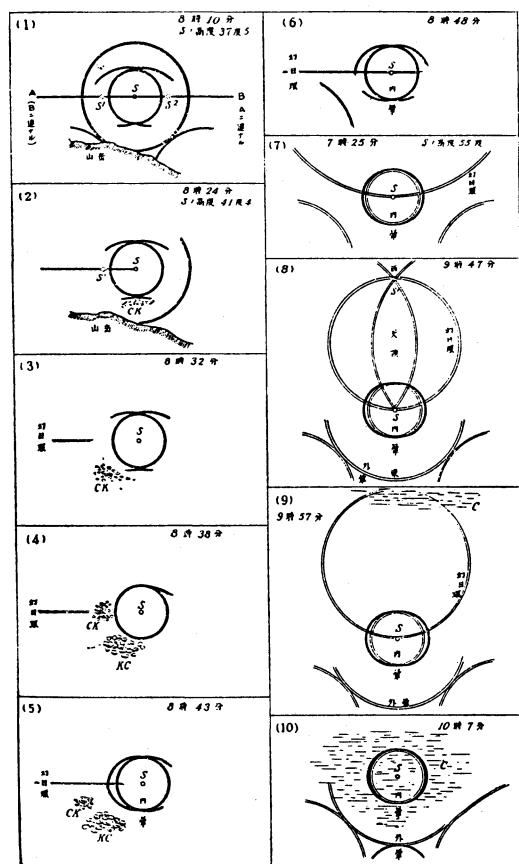
“雪は空からの手紙”

「チビッコ」は職場の便り

1983年12月14日午前9時ごろ、珍しい日暈が見られた。内暈、外暈をはじめ幻日環まで出たので、午後のお茶の時間に話題になった。『気象ハンドブック』には、雲を形成している氷晶の形の差で生じると書かれているが、どうも納得できず喧々がくがくの議論がたたかわされた。いまは亡き中谷吉郎先生は、雪の結晶形をしらべることによって、上層の気層の状態を推定できるとして「雪は空からの手紙」という有名な言葉を残されたが、いろいろの氷晶の形や分布を仮定し、電算機を使って出現可能な暈を分類し、実際の暈の観測とつき合わせれば、上層の氷晶の分布が推定できるかも知れない。その意味では、暈も空からの手紙になるだろう。それにしても、最近の気象庁は、気象光学をはじめ気象以外の地球物理現象の観測を軽視してきているのは残念です。

さて、私が気象研究所に転動してきて、一番感心し、かつ嬉しかったのは、「チビッコ」という分会のミニコミ紙があることだった。かつて私が全気象の委員長をつとめた時、職場新聞を作る重要性を口をすっぱくして言っていたからです。肩をはらず、誰でもが気軽に書ける分会紙、それが「チビッコ」の心髄です。今後も「チビッコ」が職場の便りになるよう期待します。

実は筆者は1941年5月に中央気象台付属宮津気象観測所に勤務するようになったが、気象の仕事を一生涯の仕事にしようとは思っていなかった。それは決められた時間に温度計を見たり、風速計を観測したりするだけの機械



宮津観測所で観測された異常暈  
(7)の7時25分は9時25分の誤りと思う)

的な仕事にはまったく魅力を感じなかったからである。

ところが、5月16日の早朝、その日は私の初めての夜勤の明けの日で、夜の観測を教えて貰うため、所長と一緒に夜勤をしていた。すると5時44分頃より、薄い暈が出現し始め、7時44分よりますます濃くなり、同46分には白色の幻日環や、やや鮮明な上端光弧と二つの幻日が現れた。その後、次第に外暈も現れ見取り図の8時10分

(p.54につづく)

\* Yoshinobu Masuda, 元気象研究所。



高橋 博ほか編  
 沿岸災害の予知と防災

—津波、高潮にどう備  
 えるか—

白亜書房, 1988年6月刊  
 408頁, 3,600円

本書は沿岸防災の仕事にかかわりを持つ広い範囲の読者を対象として、その基礎知識と、予知、その他の対策、とについて述べたものである。現在、第一線で活躍している理、工学各分野の学者、専門家が分担、執筆し、高橋 博、竹田 厚、谷本勝利、つじよしのぶ、磯崎一郎の各氏が編集した。その構成は次のようになっている。

- 第一章 沿岸災害概説
- 第二章 津波
- 第三章 高潮災害
- 第四章 波浪災害

第五章 その他の沿岸災害

第五章には強風、流水、濃霧、異状潮位、あびき、急潮、塩害、および赤潮と、広い範囲の災害の説明が含まれている。

説明の中には数式も多少含まれているが、図表、写真などを多く用い、ていねいに述べられているので、専門知識のない読者にも容易に理解できると思われる。とくに、執筆者のなかに、いま学界などで活発に研究や調査の結果を発表しつつある人々が多く含まれているので、記述がいきいきとしており、最新の知識にまで筆が及んでいる。天気の話者にもおすすりできる内容である。

ただ、少し気になるのは第二章の津波に関する部分が全体のほぼ半分のページ数をしめ、高潮、波浪に関する章のページ数はそれぞれ、その1/3でいどに過ぎないことである。津波に重点が置かれているとしても、本書の表題を考えれば、もう少し高潮、波浪についての説明を深めるべきではなかったであろうか。

(宮崎正衛)

(p. 39 からつづく)

のようになり、以後見取り図のように変化した。

この時の状況は気象要覧(1941)に詳しく報告されているが、所長以下わずか数人の所員が全員でこの量の観測をする姿を見て、これは面白そうだと思って気象をやってみようと思ったのである。こんなわけで量については特別の感慨があるのであるが、特に、コンピューターを使った光学現象のシミュレーションの研究をやってみたらと思っていたので、浅野のハロー現象についての紹介を興味深く読んだのである。そして、宮津で観測された見取り図のような異常量の時の氷晶の分布はどのようなであったかも説明して貰えれば、有難いものである。そ

れにしても、浅野も指摘しているように、私たち「気象」関係者も、気象光学をはじめ他の地球物理現象にも、もっと関心を持つようにしたいものである。

参考文献

- 浅野正二, 1988: 紹介: 根室で観察されたハロー現象, 天気, 35, 326-328.
- 全気象労働組合気象研究所分会, 1984: チビッコ2000号記念号.
- 宮津観測所, 1941: 異常日暈報告, 気象要覧, 501, 616-618.